

平成20年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

1. 共同利用種目 (該当種目にチェック)
 特定共同研究(A) 特定共同研究(B) 特定共同研究(C) 一般共同研究
 地震・火山噴火予知研究 施設・実験装置・観測機器等の利用
 データ・資料等の利用 研究集会
2. 課題番号または共同利用コード 2008 - A - 05
3. プロジェクト名、研究課題、集會名、または利用施設・装置・機器・データ等の名称
 和文: サブダクション・ゾーン陸側の重力変化の追跡
 英文: Gravity change along the coast of subduction zones
4. 研究代表者所属・氏名 地震研究所・大久保 修平
 (地震研究所担当教員名) 大久保 修平

5. 利用者・参加者の詳細 (研究代表者を含む。必要に応じ行を追加すること)

氏名	所属・職名	利用・参加内容または 施設,装置,機器,データ	利用・参加期間	日 数	旅費 支給
大久保修平	東京大学地震研・教授	総括	2008年11月4~8日、 2008年12月3~5日	8	無
孫 文科	東京大学地震研・准教授	重力測定・宮城	2008年12月3~5日	3	無
松本滋夫	東京大学地震研・技術職員	絶対重力測定・宮崎	2008年11月4~8日	5	無
菅野貴之	東京大学地震研 研究員	絶対重力測定・宮崎	2008年11月4~8日	5	無
植木 貞人	東北大学・院理 准教授	重力測定・宮城	2008年12月3~5日	3	無
寺石眞弘	京都大学防災研・助教	絶対重力測定・宮崎	2008年11月4~8日	5	無
園田保美	京都大学防災研・技術職員	絶対重力測定・宮崎	2008年11月4~8日	5	無

6. 研究内容 (コンマ区切りで3つ以上のキーワードおよび400字程度の成果概要を記入)

キーワード: 重力変化、サブダクション、アスペリティ

2008年11月、京都大学防災研究所宮崎観測所において4回目の絶対重力測定を実施した。今年度の測定結果及びこれまでの4回の測定結果からは、顕著な重力変化は見られない。牡鹿半島女川では、東北大学地震・噴火予知研究観測センターと協力して、2006年から2008年の間に3回の絶対重力測定を行った。短い測定期間ではあるが、 $+2.7 \mu\text{gal/yr}$ の経年重力変化が見える。東海地域の重力変化の監視を目的として、豊橋市にある名古屋大学三河地殻変動観測所において繰り返し絶対重力測定を実施している。2004年3月上旬から、年2回の観測を繰り返している。これまでの5年間の結果によると、長期的な重力変化は $-2\mu\text{Gal/year}$ で減少している。また、御前崎においては国土地理院と協力して、観測を継続している。

7. 研究実績報告（公表された成果のリスト*¹または2000～3000字の報告書）

（*¹論文タイトル、雑誌・学会・セミナー等の名称、謝辞への記載の有無、ポイント数、電子ファイル添付のこと）

- (1) 総合観測による沈み込み帯プレート境界におけるアスペリティの実態解明、平成20年度地震予知研究成果報告会、ポスター発表、謝辞なし、ポイント2

- (2) 東海地方における総合機動観測、平成20年度地震予知研究成果報告会、ポスター発表、謝辞なし、ポイント2